

# 国語教育

第117号

令和7年2月

都小国研多摩地区研究会事務局

## 第15回「多摩まなび塾」の報告

都小国研多摩地区研究会副会長 薄井 智美

令和6年11月9日（土）に、府中市立府中第二小学校を会場として、第15回「多摩まなび塾」を開催いたしました。

今年度も、国語教育について学ぼうと若手の先生方からベテランの先生方まで多くの方々にご参加いただきました。休日にもかかわらず、52名の意欲ある先生方の熱気に包まれた実りのある研修の場となりました。

第15回の「多摩まなび塾」は、「話すこと・聞くこと」講座に長年にわたり話すこと・聞くことの研究に携わってこられた石井恵子先生と泉佳子先生、「書くこと」講座に明星大学教育学部客員教授の俣田康之先生、「読むこと」講座に都小国研参与の依田雅枝先生を、それぞれ講師にお迎えしてご指導いただきました。2時間半という短い時間ではありましたが、講義だけでなく演習も盛り込まれた研修の時間となりました。各講座とも講師の豊富な実践と経験に基づいた大変充実した内容で、受講生は自分が子供になったつもりで書いたり読んだりしながら、学んでいました。また、他校の先生方同士が自分の考えを交流し合い、学習内容をシミュレーションすることで、実践につながる研修となりました。

ともすれば、指導書通りに教師と一部の子供たちで進める国語学習になりがちですが、主体的な学び手を育てるために、数々の手だてを取ることができることを教えていただきました。休日に研修に参加する機会をつくり、少しでも参加者の学びとなればと長年企画してきた多摩まなび塾です。さらに対面で学ぶことができるよさを生かしているのも、本研修会ならではです。研修会後のアンケートには、日々の教材研究に悩んでいても、一歩踏み出して参加すれば、確固たる理論に基づいた指導法と様々なアイデアを学ぶことができたという声が多数聞かれました。

貴重な知識や経験を踏まえてご指導くださった講師の先生方、熱心に受講された先生方、誠にありがとうございました。それぞれの先生方が、この「多摩まなび塾」での学びを明日への授業に生かし、多摩地区の子供たちの健やかな成長につながることを願っております。そして、この機会に研究に関心をもたれた先生方は、ぜひ東京都小学校国語教育研究会多摩地区研究会にご入会をお待ちしています。

### 実施済みの研究発表会

(話すこと・聞くこと部) 令和6年12月20日（金） 小平市立小平第十一小学校 第6学年  
(書くこと部) 令和6年12月16日（月） 府中市立四谷小学校 第4学年

### 今後の研究発表会のご案内

(読むこと部) 令和7年 2月 4日（火） 立川市立第一小学校 第5学年

## 講座番号1 話すこと・聞くことの指導

### コミュニケーションの基本をふまえた話すこと・聞くことの指導の実践

講師：元府中市立府中第七小学校

(都小国研話すこと・聞くこと部)

石井 恵子 先生

元府中市立若松小学校

(都小国研話すこと・聞くこと部)

泉 佳子 先生

講座は、「対話の練習『どちらを選びますか?』(光村図書5年)」の演習から始まりました。2つの事柄のうち、どちらが良いと思うかを、理由を挙げながら二人で話し合う活動です。相手の主張をよく聞いてやり取りをする中で、対話が深まっていく様子がよく分かりました。

続いて、「話すこと・聞くこと」の学習の基本について、ご講義いただきました。人間関係を言葉で育むことができるようにすること、そのために意識すべき指導の重点、単元展開の5つの言語意識など、よりよい授業をつくるための考え方を学ぶことができました。

後半の演習では、「お楽しみ会などで行う、クラスの外遊び」を話題に、4人組で話し合う活動に取り組みました。テーブルシートを用い、自分の考えを付箋に書いて示し、整理しながら進行することで話し合いの可視化を図ること、「決定条件」を児童と共に考え、話し合い中は常に意識することなど、実際の授業に生かせる具体的な内容でした。

参加者の皆さんが、対話すること、話し合うことの良さ、楽しさを実際に体感できる講座となりました。

(文責 事務局 田中史子)



#### (受講生アンケートより)

- ・話すこと、聞くことが苦手な児童が多いため、今回の講座を聞いて、どのような工夫をしたらよいのかを考えることができてよかったです
- ・実践を自分たちが行うことにより、子供たちの思考に寄り添うことができました。
- ・対話や話し合い活動の大切さを、演習を通して深く理解することができました。ぜひ、自分のクラスでも実践してみたいです。
- ・演習でやってみたことで、難しさを体感する場面もあれば、楽しさを感じられる場面もありました。自分が子供たちに「こういう話し合いをしてほしい」という理想があったり、方法を考えたりしていても、試すことはなかなかできないので、体感できてよかったですと思いました。
- ・テーブルシートや手引き、黒板掲示などどれも「可視化」が大切だと気付きました。
- ・月曜日からの授業にすぐに生かすことができるものばかりでした。話すこと・聞くことの授業が、子供の人間関係にも深くかかわることに改めて気付かされ、楽しく学習したいと思いました。



## 講座番号2 書くことの指導

### 書く力を育てる指導の充実に向けて

講師：明星大学客員教授

(東京都小学校国語教育研究会参与) 悴田 康之 先生

書くことの講座では、「書く力を育てる指導の充実に向けて」をテーマに、前半の理論編では「書こうとしない」「書くことがない」「書けない」「書いたかいない」という、「書くこと」における4つの「ない」に対しての課題とその解決策について、ユーモアと実践事例を交えて講義していただきました。

後半の演習では、提示された単語を織り交ぜてフェイクの新聞記事を書く活動を行いました。「人物の年齢を工夫したり、提示された単語を本来の言葉の意味とは異なる使い方をしたりすることで面白い作文になりますよ。」というアドバイスを意識すると、会場から思わず拍手が生まれるような面白い作文がいくつもできました。単語を工夫してたくさん入れようと、時間いっぱい夢中になって書いたり、書いたものをグループで読みあつたりと、交流する子供側の気持ちも楽しく体験することができました。

もう一つの演習は「俳句について学ぼう」でした。好きな句を選んで、その句から伝わってくる思いについて考えたことを散文にしたり、散文から言葉を厳選して行って俳句を作ったりする活動に取り組みました。俳句と散文を行き来することで言葉にこだわった句を作成できるのだと知り、「すぐにでも実践したい。」という意欲が高まりました。

楽しさの中にも、「もっと力をつけたい」という熱意があふれた講座になりました。

(文責 事務局 山崎由紀子)

#### (受講生アンケートより)

- ・ 普段どのように「書く」ことの指導をしたらよいか悩んでいたのが、お話を聞いて勉強になりました。「楽しく、書いてよかった。」と思えるように指導の工夫をしたいと思います。
- ・ 書くことの難しさを感じていた中で、視写や俳句の穴埋めなど、子供の興味関心を魅了させるものに出会えて、有意義な時間になりました。
- ・ 「話すこと・聞くこと」や「書くこと」は、教科書教材ではつまらない。目的意識や相手意識、何よりも題材との出会いが大切だというお話が、本当にその通りだと感じました。
- ・ 書くことそのものに慣れさせていくこと。そのために様々な形で書く経験を積み重ねていくこと大事だと思い、実践に活かしたいと感じます。
- ・ 特に今回の講座で心に残ったのは、「教師自身の文章の良し悪しを見分ける目を育てる。」という言葉だ。良い文章にたくさん触れるようにしていきたい。そのうえでより良い指導を子供にしていきたいと感じた。
- ・ 書くことへの課題、教員側への課題がその通りだと痛感するとともに、どうその課題を乗り越えていけばよいか明確に示してくださったことで、これからの学習(単元開発)に活かすことができると感じました。



## 読む力を育てる授業づくり

講師：東京都小学校国語教育研究会参与

(元都小国研読むこと部)

依田 雅枝 先生

読むことの講座では、講義と演習を通して説明的な文章の指導について学びました。講義では、国語教育は全ての教育活動で行われることや、「読む力」を育成することが国語教育の中核になることのお話がありました。必要な情報を読み解いて理解し、表現する力を児童に付けるには、優れた表現に出会うことが大切であることも教えていただきました。また、特に説明的な文章を読むときには、教材に従属する読みになりやすいので、主体的、対話的で深い学びのためには、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体として実現する授業を目指すことが大切であることも教えていただきました。

後半の演習では、講座で学んだことを基に、第4学年の説明的な文章の新教材「風船でうちゅうへ」の授業づくりに取り組みました。受講された先生は「言語活動」「課題設定」「課題追求」「まとめ・発展」の中から課題を選び、3～5人のグループになって、言語活動や指導計画、手立てについて考えました。児童の興味・関心に寄り添った授業をつくるために、受講された先生方が、能動的に読むことができる単元指導計画や指導の工夫についての考えを交流し、最後に依田先生から助言をいただくことで学びを深めました。

児童一人一人の興味・関心に寄り添った授業をつくることを大切にされている依田先生の温かいお人柄が伝わる講義を通し、受講された先生方が自然に「児童が主体的に学ぶ授業を目指し、明日からの授業に活かしていきたい」という熱い思いを抱いていく、学び多き講座でした。

(文責 事務局 大西聡子)

### (受講生アンケートより)

- ・基本的な国語（読むこと）の授業づくりからグループワークを交えての実践的な活動など、たくさんの学びがありました。授業の課題設定、要約など疑問に思ったことを助言いただけて、解決できました。依田先生、他校の先生方との交流は大変勉強になりました。
- ・「読むこと＝教材内容理解」ではなく、身に付けたい力を意識し、授業を組み立てることを再認識しました。グループ検討したこと、検討方法やグループの分け方など、個別最適な学びの方法の一つかと思ひ、児童の気持ちを感じることができました。
- ・授業づくりの演習では、新教材「風船でうちゅうへ」を初めて読み、グループで考え、討論しながら、教員同士の多様な考えを得られました。「興味をもったところ＝理解できたところ」が大切だと分かりました。自分のクラスだったら、どんな反応をするのか、興味・関心をもつのかを想定しながら、楽しく充実した話し合いになりました。
- ・説明文において、課題設定は教師主導になりがちでした。児童の興味をもったところを中心に活動に取り組んでいく子供の「伝えたい」という意欲を落とさずに目標に向かっていくことの大切さを改めて感じました。目の前の子供に還元できるように、日々の授業に取り組んでまいりたいと思います。

